

ろうさん彩登

サイ ト

埼玉県勤労者山岳連盟

機関紙：発行責任者 武笠真次
編集 小松勝浩

〒330-0063
さいたま市浦和区高砂4-1-5ふじビル2階
TEL・FAX 048-838-0640

<http://www.tozans.justhpb.jp/>

14号目次

P1：県連の動き

P4：奥武蔵武川岳の岩場訓練山行

P5：石巻支援募集



今年も石巻支援に行きましょう！

日 程 9月27日(土)～28日(日) 募集人員 25名

支援場所 宮城県牡鹿半島谷川浜

(作業：牡蠣の養殖種付けの手伝い)

宿泊先 民宿『あたご荘』(1泊2食付)

費 用 ￥20,000程度(宿泊費・バス代含む)

締 切 8月31日(日)

申込方法 HPの申込み用紙に記入の上、各会の事務局でまとめて申し込んで下さい。

県連の動き



委員会活動報告

全国連盟活動

全国遭難対策担当者会議7/5～6(土・日)

県連全体活動

6月22日(日) PM1:30 第1回評議会(代表者懇談会)

司会：加納副理事長、写真 尾手 22名参加

参加者を3班のグループに分けて討議形式で下記4項目について話し合い各グループ毎に発表しました。

- ①県連活動と言えばなにを思うか②自分の会の県連意識③役割と必要性④県連役員への参加しやすくするために何が必要か

事務局

遭難防止・安全教育担当者会議、第1回評議会配信

機関紙

機関紙電子版14号発行 7月9日

6月22日(日) AM10:00～12:00機関紙担当者連絡会を高鼻コミセンにて開催しました。14加盟会より15名及び理事3名計18名の参加
司会：小松理事、写真 尾手 ろうさん彩登を簡素化に出来ないか2～3枚程度に 各団体(参加)から順次活動報告等を記載するなど意見交換をしました。

女性

委員会 6/1(7名) 6/9(2名) 新規の担当者との打ち合わせ

6/27～28 女性担当者会議(国立オリンピック記念青少年総合センター)

定期総会参加予定 2年に1回 参加費¥6,000

山筋ゴーゴ体操冊子CD版ができました。熊トレは、山筋ゴーゴ体操講習会を実施予定です。

委員会活動報告**ハイキング**

7月13日交流バスハイキング 参加費¥3,500 雨天決行
ハイキング委員会： パルコ 6月会議無し 次回7/4 PM6:00-7:30 浦和コミセン9F
7/13 「三国山と法師温泉」交流バスハイク 25席 西部B 6名
(所ハイ・新座・山酔・峠) 北部2名(上里) 南部11名(わらび・あすなろ・三郷) 中部(大宮)
*全国ハイキング委員会
・6/16 ハイキング冊子「セカンド・ステップ」(ハイキング養成テキスト)改編 6月末発行予定 7月理事会より注文受けます。
・全国交流集会 in 岐阜 9/27-28 軽ハイキングあり 会費8000
現地集合本部へ申込み

財 政

・委員会活動費 について
連盟費第一期分 理事会で申請 6月末18団体納金 後期10月末 各団体の連絡先の再確認

ホームページ

7/9機関紙電子版14号発行・沢ネット掲載・ハイキング委員会・峠山の会活動報告・県連加盟委員近況報告等

自然保護

6/1 クリーンハイク
・西部 B 越生 大高山参加者94名
*石巻支援 は9月 27.28日決定 27年3月14.15日千葉県連と合同 場所 谷川浜30名予定

登山学校

6/30 運営委員会 12名参加
6/7 計画から下山まで 机上29名 6/8 実技28名 大小山
7/5 登山と運動生理 机上27名 7/6 実技28名 那須岳
次回運営委員会 7月28日
次回講座「救急法」8/2机上カルタスホール8/3実技日和田山

救 助 隊

6/9第3回役員会5名 次回9月8日
・7/7沢搬出学習会19:30~パルコ9階 7/27 沢搬出訓練 場所未定

岩ネット

6/21 日和田山ゲレンデ11名 新座3、所ハイ3、やまなみ2、飯能1、三郷1、他1 次回7/26(土)9:30日和田ゲレンデ

沢登りネットワーク

月1回位計画予定：交流と技術の向上を図る
7月、8月、9月、10月予定をHPに掲載しました
① 7月20日(日)日帰り奥多摩；丹波本流or 谷川・ヒツゴー沢[打合せ：7/9(水)さいたま市民活動サポートセンター(パルコ9F)19:30~

遭難防止・安全教育

6月22日（日）遭難防止・安全教育担当者会議開催

議題：緊急時のツェルト使用方法他

受付9：30、開催10：00～12：00 23名参加

アドバイザー：柴山救助隊長

司会：若木理事、写真 尾手 映像で解説 安全登山 ビバークは早
めに 連絡方法等、赤城山の冬場の遭難事故の事故原因の検証 道迷い
転落 転倒

加盟団体活動報告

加盟団体の総会予定

6/29大宮勤労者山岳会総会

第1回評議会（代表者懇談会）

6月22日（日）PM1：30 第1回評議会（代表者懇談会）

討議項目

- ①県連活動と言えばなにを思うか
- ②自分の会の県連意識
- ③役割と必要性
- ④県連役員への参加しやすくするために何が必要か

司会：加納副理事長、写真 尾手 22名参加

- ①県連活動と言えばなにを思うか？

安全登山の講演 登山学校 クリーンハイク 救助隊 植樹祭 ブロック行事

- ②自分の会の県連意識

技術や知識の講習など各団体ではできないことを継続的に行なっている交流ハイクな
ど他の会の知ることが出来る。県連は自分の会とは別であり関心はない。

- ③役割と必要性

県連からの情報で各種の活動に参加する。 新特別基金のメリット

- ④県連役員への参加しやすくするために何が必要か

各団体の現状役員を出せない団体もある。 各会で定例会等で県連の報告をする。

役員の参加も強要は出来ない。理事会等中々雰囲気になじめない。県連の理事会、各
委員会、講演会等の開催地の変更 メール ホームページの活用

ブロック活動報告

西部＝ブロック会議：千葉B長（飯能）会議, 6/ 12 9/11クリーンハイク交流ハイク

南部＝ブロック会議：伊藤正B長（わらび） 会議, 6/19 6/1クリーンハイク

中部＝ブロック会議：岡野B長（大宮）会議6/ 6/1クリーンH（連絡待ち）

北部＝ブロック会議：石川B長（熊ト）会議6/ 9/6 熊谷中央公民館

救 助 隊**奥武蔵武川岳の岩場訓練山行**（文責 柴山利幸）2014/05/11

今年度初の訓練山行は5月11日奥武蔵武川岳の岩場で行った。目的は隊のスムーズな移動と滑落を想定したセルフレスキューの訓練。参加者は11名。

名栗のげんきプラザ駐車場に7時半集合、同所には事前に訓練での使用を伝え、駐車場の提供で協力をしていただいた。集合後簡単なミーティングを行い3班に分け出発、班分けは少数のルート工作班、本隊班、補給班の目的で分割したが、ルート工作班が登攀準備の整う前に補給班が到着したり、本隊班は違う枝尾根に入り移動場所の到着地点に出たりしたため、下部岩場を出発するのに手間取り、状況を整理するのに時間を要した。岩場下部からはロープを使用し、2～3ピッチの移動を行う。各班のリーダーの力量と隊員の普段からの山行技術のため、登り始めてからはスムーズに移動ができた。始めるまでの準備に手間取ってしまうのが惜しいので、今後の課題として取り組んでいきたい。こうした訓練山行では、苦しんでいるかもしれない遭難者を想定して、一刻も早く急げるところは急ぐ姿勢で訓練するのと、普段の山行の延長で想定をしていない場合とでは、中身の充実度がまるで違うので、今後は想定を強調して訓練を始めるようにしたい。岩場上部からは、古い鎖場を利用して、縦走路のセルフレスキューを行う。ロープがないと降りられない場所に要救助者役を置き、難易度の低い順番から、ひとつひとつ試してみることとした。最初はロープが1本しかなく、これ以上落ちないようにするための処置。簡単そうなことだが、ロープが落石を誘発しないか、少し離れた位置に落ちたロープを掴もうとしてより落ちたりしないか、支点の強度などの注意事項を実感することが出来たと思う。特に助けようと思い、良かれと投げたロープを取ろうとして落ちる、などの事態悪化の可能性は十分に考えられるため、要救助者を焦らせないように、また不用意な動きを止めるための声かけの重要性が身にしみた。助けを呼びにくい場合でも、目を離さない、もしくは絶対に不用意に動かさないための工夫が必要である。また、ロープと自分の体に結びつけるのにも、古くから組織登山者の中で伝えられている技術もあるので、普段から片手で出来る方法を練習しておきたいし、新人の加入時には教えて、共通する危機感も受け継いでおくこともしておきたいと思う。

これ以上落ちないための措置をした後は、安全に留まってもらうための措置を行う。無理に引き上げたりすることを考えがちだが、人の命が懸かる場面では、やったことがないことを試してみることが厳禁と確認をした。訓練して、さらにうまくいかない場合も考え、装備や状況、人手の確保など、確実な行動が確約されてから引き上げることを徹底する。そのためこの時点では、ロープをつたってツエルトを要救助者に渡し、落ち着かせるための処置を練習した。実際に要救助者役の隊員も感じたと思うが、斜面にひとりで取り残されているところでは、ツエルトをかぶるだけでもずいぶんと落ち着きを取り戻せるはずだ。ショック時の処置としても保温は有効で、事態を悪化させない処置になると思われる。次は歩けることを想定して、救助者が懸垂下降して、要救助者を介助しながら斜面を登る練習。この場合も落石を誘発させないコース取りや、支点の強度など気を回さなくてはならないことがたくさんある。いきなりすべてに注意を払うことは出来ない所以、訓練していないことはやってはいけない、ということにも実感できたと思う。

難易度が上がり、いよいよ引き上げを練習する。引き上げを行う場合には、バックアップのロープを使用する。ロープが1本しかなくバックアップが取れなければ引き上げをしない、というのを、今年度から当救助隊では徹底している。命に関わることに手を出すことへのルールとして、重要なことだと考えている。人手が多く、たくさんの力で引き上げる方法と、一人の力で一人を引き上げる方法と、それぞれを練習した。

こうした想定のある基礎的な訓練は、使わないと忘れてしまうので、定期的の実施する必要性を感じている。民間救助隊ではひととおりの訓練を年間で行う時間しか取れないのが実情なので、反復練習するための仕組みづくりに工夫が必要と考えている。

埼玉県連団体各位

2014年7月1日

埼玉県勤労者山岳連盟理事長 武笠 真次

自然保護担当 加納 隆夫

今年も石巻支援にいきましょう！

東日本大震災が起きて3年が過ぎました。
県連の皆さんには、これまでの支援活動にご協力を頂きありがとうございます。
被災地は大きな町では片づけが進み、復興も始まりましたが、牡鹿半島などの
小さな浜や集落では復興もままなりません、人手不足も深刻とのことです。
埼玉県連では今年も『少しでも手伝ってもらいと助かる』『観光で来てくれるだ
けでもありがたい』という地元の人の声を受け支援活動に伺うことにしました。
多くの方の参加とご協力をお願いします。



日 程 9月27日(土)～28日(日)
出 発 9月26日(金) 20:00 東上線「ふじみ野駅」西口ロータリー先
20:40 JR「南浦和駅」西口 まるひろ前
募集人員 25名
支援場所 宮城県牡鹿半島谷川浜（作業：牡蠣の養殖種付けの手伝い）
宿泊先 民宿『あたご荘』（1泊2食付）
費 用 ￥20,000程度（宿泊費・バス代含む）
締 切 8月31日（日）
申し込み方法 別紙の申し込み用紙に記入の上
各会の事務局でまとめて申し込んで下さい。

申し込み先 加納 隆夫（県連自然保護担当）

E-メール kanot01927@ceres.ocn.ne.jp

*なお、 詳細費用・スケジュールは8月中旬までにご連絡します。